



瀬川至朗

桶田 敦

島 明美

添田孝史

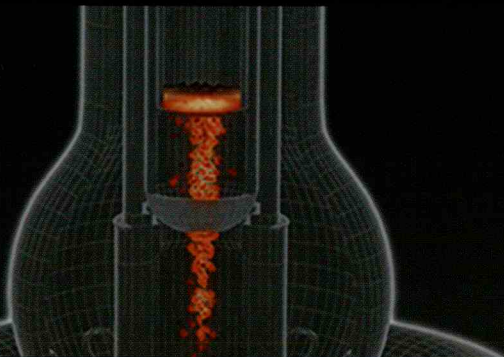
片山夏子

満田夏花

加藤就一

林 勝彦

丸山重威



# ジャーナリズムは原発報道で責任を果たしてきたか？ ～放射能惨事・これまでとこれから

CG ©SVS・A.Narita

2021年10月09日 (土)13:00～17:00 オンライン・小野記念講堂

原発と人権・メディア分科会

会費 800円 Peatixを通じてお申し込み、お支払い

申し込みはネットで、<https://mediabunkakai.peatix.com/view> からお入りください。

(ご寄付をいただける方は一口1000円でよろしく申し上げます)

主催：第5回「原発と人権」全国研究・市民交流集会メディア分科会実行委員会

共催：早稲田大学国際情報研究センター サイエンス映像学会

原子力資料情報室 日本ジャーナリスト会議(JCJ)



Peatix参加お申し込みQRコード

## ジャーナリズムは原発報道で責任を果たしてきたか？ ～放射能惨事・これまでとこれから

第5回『原発と人権』全国研究・市民交流集会メディア分科会  
2021年10月9日(土)午後1時～5時  
東京・早稲田 早稲田大学・小野講堂 (会場参加50人)  
会場参加とオンライン併用



参加お申し込みQRコード

会費 800円 Peatixを通じてお申し込み、お支払い  
申し込みはネットで、<https://mediabunkakai.peatix.com/view> からお入りください。  
(ご寄付をいただける方は一口1000円でよろしくお願いします)

### プログラム

映画上映、開会挨拶 コーディネーター・司会 林 勝彦さん  
(元NHK、東大客員教授)

#### ○第1部

基調報告「ジャーナリズムは原発報道で責任を果たしてきたか？」  
早稲田大学政治経済学術院教授、瀬川至朗さん  
(元毎日新聞編集局次長、科学環境部長)  
コメント 大妻女子大学教授、桶田敦さん(元TBS解説委員)

#### ○第2部 現場と専門的な分野からの報告

- 1:『見捨てられた被ばく者～どこへ行ったか被ばく報道』  
個人線量計データ検証と生活環境を考える協議会代表 島明美さん
- 2:『原発報道～朝日・吉田調書事件を一つの題材として』  
サイエンスライター 添田孝史さん  
(元朝日新聞、国会事故調協力調査員)
- 3:『原発作業員の現状と報道の自由～現場取材10年の闘い』  
東京新聞・福島特別支局長 片山夏子さん
- 4:『世界の常識、日本の非常識 ～報道の欠如、論評の偏り』  
国際環境FoE Japan 事務局長 満田夏花さん  
(原子力市民委員会座長代理)
- 5:『原発の懺悔 ～メディアがキャリアした原発のウソ』  
原発ジャーナリスト 加藤就一さん(元NTV)

#### ○質疑応答

○閉会挨拶 コーディネーター 日本ジャーナリスト会議 丸山重威さん  
(日本民主法律家協会、元共同通信、関東学院大学)

※お断り:コロナ感染状況により、場合によっては、全面的にオンライン開催になります。  
よろしくお願いします。

## 「原発とメディア」を考えてくださるみなさまへ

福島第一原子力発電所の3基が爆発してから10年。『原発安全神話』が崩壊した今、『放射能安全神話』が懸念されています。

原発爆発時、広島原爆の約168倍(Cs 比)の放射能が関東圏まで拡散。直後、緊急避難者は、16万人。現在も、区域外避難者を含めると9～10万人が故郷に帰っていないと推定されています。加害側の東電や、真っ先に逃げ帰った経産省・保安院などは誰一人裁かれず、3事故調の提言もほぼ無視。再稼働進行中です。

去年、JR常磐線全線が開通し「ハードの復興」は一部進展しましたが、「心の復興」は道半ばです。現在、一般人の20倍もの高線量下での避難解除が進みますが、平均帰還率は20%程。原因は、『放射能の人体影響』と『コミュニティ喪失』です。『原子力緊急事態宣言』は、現在も発令中。ここに、『原発と人権』問題の核心があると思います。

最近も、原子炉建屋上部の蓋で超高線量放射能が判明。途切れ配管に汚染水、デブリ、トリウム内部被曝、通常の1000倍を越す廃炉廃棄物、棄て場無き高レベル核廃棄物など問題山積です。

当初、核の世界支配を狙った米国の政策に乗り、メディアは『夢の原子力』と宣伝してきました。しかし、3.11以降、政、官、財、学に報を加えた「原子力ペンタゴン」は、崩壊した「原発安全神話」に変えて「放射能安全神話」をばらまき、なお原発を推進しようとしています。

国民の60%程が再稼働に反対し、足踏み状態の間に国際社会は脱原発、脱炭素化、自然エネルギー導入へと邁進。ガラパゴス化する日本は、『失われた30年』を更新すると心配される程です。

事故から10年、メディアは様々な報道をしてきましたが、「3.11」が引き起こした社会の大きな変化や「核とのつきあい方」はおろか、事故へのプロセス、原因などについてすら、十分な報道ができたとは言えません。

ジャーナリズムの責任は、事実を報ずるとともに、その意味を伝え問題点を明らかにし、解決のための方向性や指針を差し示し、民主的な議論の場に提供することです。

今回の『原発と人権』メディア分科会では、メディアが避けてきた問題をも再度取り上げつつ、ジャーナリズムの責任と課題の視点から、ジャーナリズムは何を報じ、何を論ずべきか？そしてこの10年、メディアは何を伝え、何を伝えてこなかったか？今後何を伝えるべきか、考えたいと思います。

ぜひご参加ください。

主催: 第5回『原発と人権』全国研究・市民交流集会メディア分科会実行委員会  
共催: 早稲田大学国際情報研究センター サイエンス映像学会  
原子力資料情報室 日本ジャーナリスト会議(JCJ)